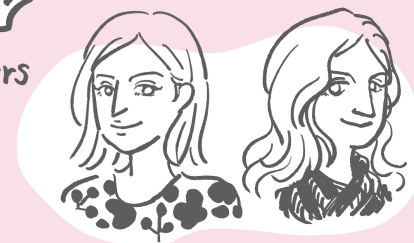


Vol.
02

世界一幸せな国フィンランド、ヘルシンキの「Functional City」

7th October 2025

Speaker
Helsinki Partners
Sonja Malin



VTT
Kirsi Kotilainen

Helsinki Partners
とは

ヘルシンキ市が国際競争力を高め、持続可能な経済成長を推進するために設立した**地域政策公社**。ヘルシンキを拠点とする企業と世界中の組織とつなぐビジネスのコンシェルジェ的存在。

① 自然と共鳴する文化

自然が近く、歩いていける場所に海岸や静かな森があり、心が落ち着く。

② デザインが生む好奇心

ヘルシンキは世界で初めてチーフ・デザイン・オフィサーを設置した都市。利用者の視点に立ったサービスデザインと大胆な建築が見事に融合した施設（中央図書館 Oodi）などがあり、それは生活を快適にし、同時に好奇心をかき立てる。

③ 機能するウェルビーイング

遊歩道やサイクリングコースが整備され、通勤時の混雑もないため街の移動は働いている時でもプライベートでもとてもスムーズ。学校ではすべてのこどもたちにあたたかい食事が提供され、必要な時には誰もが安心して医療サービスを受けられる。

④ 誰もが居場所を持てる街

どんなバックグラウンドを持つ人でも意思決定に参加でき、移住者でも安心して暮らせるよう、無料の語学コースやインテグレーション・プログラムがある。サウナはこの象徴でもあり、社会的地位や経歴などを脱ぎ捨て、誰もがリラックスできる場所。

⑤ 今日に芽吹く未来のイノベーション

気候的にも国民気質的にもエンジニアに最適な環境が整っており、イノベーションが盛ん。法人税が 2027 年までに 18% へ引き下げられ、国際的人材の所得税も軽減され、規制も簡素化。国境を越えた投資がより迅速かつ容易に。パイロットプロジェクトやディープテックの実証を推進。街全体が実験場となっている。

⑥ 地球に優しい成長

単なる成長戦略ではなく、環境に優しい成長を重視。すべてのソリューションが人・ビジネス・環境にとって価値があるものであることを目的。

国が運営する 2000 人以上の研究者を要するリサーチ機関。科学技術に基づいたイノベーションを目的とした実践的研究所。単なる学術研究ではなく、研究成果を社会や産業に実装し、経済と持続可能性の両立を推進。これらによって人々の快適な生活に貢献。企業・大学・自治体を巻き込んだプロジェクト多数。

Mindful Meeting

人々がどう出会い、相互的に関われる仕組みにするかを研究。心拍数や目の動き、発言回数などのデータを収集し、ストレスや会議の活性度合いを分析。

AI Powerd Tram

街の中を走る無人運転のトラムを「使わない」選択をした人の理由を研究。安全・安心における不安材料フォーカスし、不審な動きや怒っている人を察知するセンサーなどを用いてデータを収集、分析。

幸福を形作る

6つの
柱

VTT
とは

リサーチ・プロジェクト
の一例



about FINLAND

人口：約 **560** 万人

国民性：日本人に少し似ている？親日家が多い。サウナが大好き。

首都、ヘルシンキ市
約 **50%** が
森や公園

デザインの意識が高い。

イノベーション、スタートアップが盛ん。
「New Nordics」
のうちの一国。

INSIGHT

「Functional City」がなぜ、世界一幸せな国を作っているのか？

① 「幸せ」のための何か特別なことはない

「Functional City」は誰にとっても利用しやすい、生活しやすい街づくりを目指し、市民を誰一人取り残すことのない施策。すべての人にとって平等でオープン、そして何より自然環境を大切にしまちづくりが日々の生活のなかで幸せを感じることに繋がっている。

② デジタル化は、市民の生活向上のための手段

ヘルシンキでは、街自体のデジタルツイン、公共データのオープン化、そして市民生活の情報や税制や社会保障関係のデジタル化などが進んでいます。SLUSH など世界的なスタートアップイベントが開催されるなど注目されている「デジタル化」ではあるが、あくまでも市の施策の目的は「市民の生活のレベルの向上のため」。

フィンランドでいう「幸せ」とは、何か特別な良いことや嬉しいことがある、というものではなく、日常の生活の中で感じる。デジタル化を進めることは、人々がスムーズに生活を送れるという快適性を生み出す上での施策。
その結果として、幸せな国となっています。



Build Vision 株式会社

【国交省担当者のコメント】

フィンランドでは、まちづくりの中に「市民の幸せ」が自然と組み込まれていることが印象的でした。日本でも、環境や都市政策を考えるときに、暮らしの満足感や心の豊かさを大切にしていきたいですね。